

Japanese Unexamined Patent Publication No. SHO 59-23430

Publication Date: : February 6, 1984  
Application No. : SHO 57-132015  
Filing Date : July 30, 1982  
Inventor : Mitsunori MATSUMOTO  
Name of Invention : FUSE AND FUSE BOX  
Applicant : Yugen Kaisha Kasahara Denki Seisakusho

Page 152, Lower Left Column, lines 18-20 in Japanese Text:

By punching an alloy plate suitable for forming a fuse, a base plate (1) of a rectangular shape and a plurality of fuse elements (2) in a comb-like shape are formed integrally.

Page 152, Lower Right Column, lines 7-11 in Japanese Text:

The box member (B) for accommodating the fuse (A) is such that partition sections (5) for holding the six fuse elements (2) of the rectangular base plate (1) are provided inside the box member (B) and that a terminal bracket (7) equipped with a pin (6) is attached to a bottom plate of the box member at a position in agreement with fuse mounting holes (1') and (2').

Page 152, Lower Right Column, lines 15-20 to Page 153, Upper Left Column, lines 1-4 in Japanese Text:

A cover member (C) which covers the box member (B) to render the fuse (A) in pressing contact with the terminal bracket (7) is provided with a projecting member (9) formed with a pin holding hole (8) at a position in agreement with the pin (6) of each terminal (7). Mounting and fastening the cover member (C) onto the box member (B) by fastening means such as a fastening screw secures a construction in which the fuse (A) is rendered in pressing contact with the terminal bracket (7) by the projecting member.

An insertion blade (10) and an insertion blade (11) are respectively mounted on the side of the based plate (1) and on the side of the fuse elements on the backside of the box member in a communicable state with each terminal (7).

◎公開特許公報(A) 昭59-23430

SPIN. CL?  
H 01 H 85/22

識別記号

片内整理番号  
6658-5C

③公開 昭和59年(1984)2月6日

発明の数 2  
審査請求 有

(全・6頁)

④ヒューズ及びヒューズボックス

⑦出願人 松本光規

東京都大田区下丸子3丁目27番

② 符 順 E357-132015

65

規光本松 著者 明 發

東京都世田谷区池尻3丁目3番

東京都大田区下丸子3丁目27番  
6.号

⑮代理人 弁理士 神保勉

外1名

三 四 五

- [illegible]

今更に於て決定した新造として、開口角を圓錐體の  
ノリツクに維持したり、又は其のヒューズの場合  
には一ノ取付け部を圓錐體に附設して之を止むべ  
ざるを得ぬ、従つて圓錐體が多数にわたる、しか  
らば、電流値の増減する特殊な回路の場合にはヒュー  
ズを取付け得ないで済んでゐる、又電流値の減少  
を引起し、短絡するおそれがある、更に予備電  
流を一ノズを常時閉鎖して用ゐたりすればならぬ不  
足がある、特に予備のヒューズのない場合には長  
電阻が重なりつたはならない不慮がある、其等  
所法の閉鎖或又は電流重疊の場合にはヒューズ切  
れた上ヒヒューズを交換する場合には、閉鎖の瞬間  
を必要とするために、其等の閉鎖上極めて不都合を  
おこす。

この説明は上記の如く電流のヒューズの欠点を  
指摘し、ヒューズが一割損壞をいたしました新造を  
示すなら、蓋然性原理のヒューズエレクトロニク  
を併設して閉鎖し、蓋然及びヒューズエレクトロ  
の損壞には、又之を取付けを閉鎖したのであるから

製作にあたり、収録のヒューズの同時加工がてきまつた利便があり、又、製作に際してもヒューズ・スワッチの差を直接に確認して端子の位置をリチウム電池で記憶することにより、簡単な回路の組立を防止できる利便があり、又、各ヒューズ・スワッチの位置を必要に応じて任意に変換して製作でき、誤配線を防止する利便があり、更に又、手組のヒューズ・スワッチを併設し、一部を予備ヒューズとしておき、使用したヒューズが故障した場合には直ちに予備ヒューズで交換して使用し、ヒューズが消耗したより生ずる作業の中断を回避的に防止する利便を奏するものである。

上記のバー・Xは、特許するバー・Xを、 $\alpha$ と $\beta$ に別れて製造したもので、製造の際にはバー・Xの製造水に用いる原料を改修して、バー・Xを製造し製造するとの関係は、特許バー・Xを改修して製造するに製造することを禁止し、 $\alpha$ 、バー・Xのみを製造しては、 $\beta$ を製造することのみを禁止してバー・Xの中を改修して或る程度にバー・Xに若干の改修を加へ製造する製造は、 $\alpha$ と $\beta$ のバー・X

同様に蓋板(1)の中央より片側に傾斜した位置に付孔(17)を、又、各ヒューズエレクトロンの端にも付孔(18)を穿設する。

所望の性質を有する前記ゾーン(1)は、各エーサエレンゾフ(2)の中央部分に両側に切欠(4)として構成する。

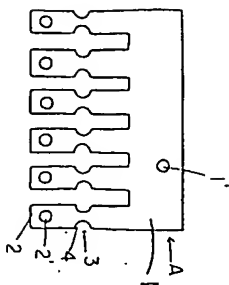
上記エー・エス(14)を収容するモノマスは、液体の充填(1)の下のエー・エスノリ(14)を収容する区画(8)が液体(8)の側に設けられ、底面はエー・エス取付孔(11)及び(21)を有する位置に(16)側を傾斜させ、(17)が設けられる。

この置換 (2) には  $\alpha = \alpha$  (A) しか取付け  
(1') 及び (2') を対応するエンゲル数にして区別  
に収容されるものである。

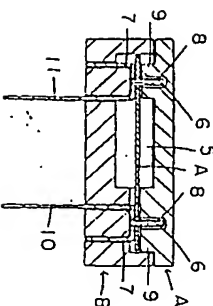
$\mathbf{e} = \mathbf{e} - \mathbf{A}$  を親子金目(1)に返却するたのた  
 注 (2)に返却される親体 (5)に反は親子(1)のこ  
 親に金返する位度でこの返却不明を消滅したた  
 親金返けられ、親体 (0)を親体 (2)に返却し、  
 直子親、親金は止るのたに止り止置した限、親体  
 とし  $\mathbf{e} = \mathbf{e} - \mathbf{A}$  (7)を親子金目(1)に返却する所



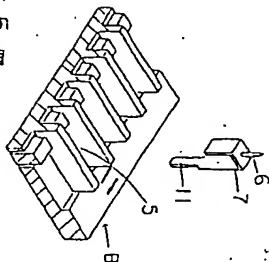
第 2 圖



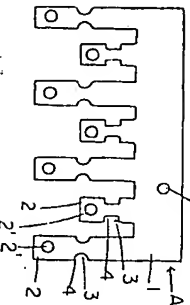
第 3 圖



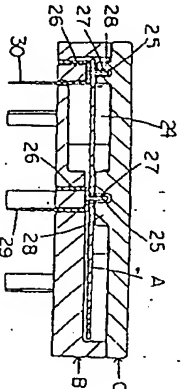
第 4 圖



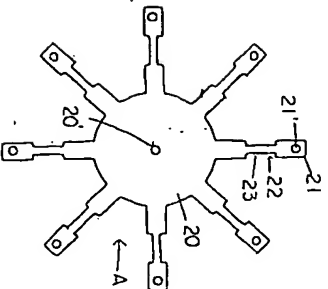
第 5 圖



第 7 圖



第 6 圖



第 8 圖

